

## 技術教育研究会の創立40周年を喜び、 いっそうの発展に期待する

前代表委員 佐々木 享

1960年に創立され、民主的で科学的な技術教育の研究をすすめることを目的としてきた私たちの技術教育研究会は、2000年1月で40周年を迎える。私たちの運動が、歴史の試練に耐えて今日を迎えたことが何よりも嬉しい。またこの研究会の運動の趣旨に賛同して積極的に参加し、今日まで支えてきて下さったたくさんの人びとに感謝したい。

私は、職業(勤め先)は転々としたけれども、1960年頃から今日までの生涯を技術教育研究一筋に生きてきた。この歳月の中の私個人と技術教育研究会とのかわりあいを簡潔に述べると、創立後間もなく運営委員の一人となり、1970年8月に、創立以来10年程事務局長を続けられた原正敏先生が北海道大学に転任された後を継いで、2代目事務局長に就任した。私の事務局長時代は、私が名古屋大学に転任した1976年まで6年間続いた。70年前後はいわゆる大学紛争・高校紛争の時期であったが、一方1970年代は全国各地に革新自治体が誕生し、民間教育研究運動も活気に満ちていた。この流れは私たち技術教育研究会の運動にも幸いした。すなわち常任委員会中心の活動が活発になり、それまで東北民教研と合同だった夏の全国大会も独立して開催することができるようになり、時宜に適したテーマによる公開研究会も毎年定例化し、『会報』もほぼ順調に発行され、研究誌『技術教育研究』も創刊された。何よりもこの時期に全国の仲間へ支持されて会員数も飛躍的に拡大した。ようやく一人前の全国団体になれたかな、というひそかな満足感もあった。私は名古屋大学に転任したことを契機に、1976年8月に事務局長を辞任して河野義顕さんにその後を引き継いだ。河野事務

局長以後の時期については、それぞれの歴代事務局長が書いて下さるはずである。その後、2代目の代表委員を務めてこられた原正敏先生が1989年8月に辞任されたので、第3代目の代表委員を仰せつかり、昨98年8月の京都大会まで9年間在任した。その後は再び1常任委員に留めて頂いている。

ここで、私の個人的な感想を述べさせて頂く。私たちの技術教育の研究と運動は、歴史の進歩にそくして40年間の試練に鍛えられ試されて発展してきた。この運動をさらに発展させるためには、紆余曲折して一時的には逆行するような政治の流れに抗して、歴史はかならず進歩するという深い確信をもち続けることが大事であろう。私の場合、以前もいまでも、全国の地域や職場にはまだまだ私たちの手が届いていない所に、志を同じくする仲間がたくさんいる、という確信に支えられてきた。その全国の仲間と手をたずさえて、民主的で独立独歩の姿勢を堅持しながら、運動を発展させたい。

近年の政治や教育政策の動向は、技術教育や職業教育の将来に必ずしも楽観を許さないように思われる。こうした中で私たちがめざす科学的で民主的な技術教育の研究を発展させるためには、これまでよりもいっそう研究の質を高めることが重要である。技術教育研究会に参加すれば、政策動向の本質、教材やその背景について必ず学ぶものがあり、子ども青年についての理解が深まり、授業実践に確信がうまれる、といわれるようにしたい。それなくしては、手弁当て運動に参加しようという人を結集することはできないように思われる。焦らずに前進したい。

(元事務局長 1970.8~1976.8在任)